独立行政法人 福祉医療機構
令和3年度 社会福祉振興助成事業
WAM 助成 通常助成事業

「子ども・若者の安心・安全な場つくりと自立を応援する」

実施報告書

実施期間
令和３年４月～令和４年３月

特定非営利活動法人 ウイズアイ

みんなのおうち「ゆいゆい」
玄関前のプランター
子どもたちと一緒に植えた“いちご”（手前）

ごあいさつ

当団体で，不登校の居場所事業が始まって４年が経ちました。その間，出会いがあり，巣立ちもあり，多くのお子さんと若者の利用がありました。

ニュースでは，コロナ禍における不登校児童の増加が話題になっています。原因は感染症への恐怖だけではないでしょう。それはきっかけに過ぎず，一気に不登校児が増えたような印象も受けますが，潜在的に登校に悩む子たちが表出したとみるべきでしょうか。

当団体の居場所利用者の年齢層はその年によって異なりますが，特にコロナ禍においては若年化が目立ちます。若年であるがゆえに，ご家族との連携はより大切なものでした。自分の思いをうまく伝えられない子と向き合い，ご家族からご家庭での様子を聞き，必要であれば学校に出向いて連携をはかりました。

団体にとっては，運営面で不安定な事業です。一定数のニーズを把握しながらも，毎日の利用者の人数は推測することもできない。しかし，思い立った時に立ち寄れる場所として常にその扉は開けておく。公共の施設が休館の時も，不安になったら電話をかけられる体制で待っている。これらはやはり草の根支援を継続してきた，当団体の使命だと考えています。今年度は，さらなる支援の充実のため，スタッフが昨年度から何度もミーティングで話し合ってきた地域連携強化に向け邁進していきます。

あらためて，清瀬市教育委員会，各種講座講師の皆様，本事業へのご協力に深く感謝しお礼申し上げます。

今後とも連携を強め，子ども達，若者たちが生き生きと過ごせる地域づくり街づくりを，団体一丸となって目指してまいります。今後とも末永くご指導ご協力賜りたくお願い申し上げます。

令和４年４月吉日

特定非営利活動法人　ウイズアイ
理事長　吉松治任

目次

１　はじめに
　1-1　課題とニーズ
　1-2　総括

２　事業実績
柱立て：1　10 代，20 代の自立支援事業
　柱 1-1　住居の確保
　柱 1-2　食の確保
　柱 1-3　中間的就労支援（就労訓練）
　柱 1-4　権利擁護支援
柱立て：2　家族まるごと支援事業
　柱 2-1　課題を持つ親子の支援
　●日常の困りごとに対応しながらご家族を支援
　柱 2-2　当事者グループの支援
　●不登校の子どもの居場所の運営
　●「親の会」「親父の会」の定期開催

柱立て：3　コミュニティソーシャルワーク事業の展開
　柱 3-1　定例ミーティング，カンファレンスの不定期開催
　柱 3-2　連携施設，学校，行政への訪問　連携施設との打ち合わせ
　柱 3-3　アウトリーチ
　柱 3-4
　　●「そらカフェ」オープンミーティング
　　●支援者向け公開講座の開催

３　報告書に寄せて

４　広報ツール資料
　4-1　ホームページ
　4-2　講座チラシ

1　はじめに

1-1　課題とニーズから見えた必要な支援

（応募書類より一部抜粋）

「不登校の居場所づくり事業」の取り組みから見えてきた課題とニーズ

■不登校の期間，要因，環境によって異なる子どもの対応の難しさ

行き渋り，発達や学習の課題，集団生活への抵抗感，不登校の長期化，親の精神疾患，シングル家庭など，要因は一つとは限らず多様である。生活リズムや食生活の乱れ，運動不足，対人恐怖や引きこもり，母子分離不安等も懸念される。

個々の要因に向き合うことを無理に急がず，まずは「ありのまま居られる場所」を用意すること。その後，本人とご家族の気持ちに寄り添い，必要であれば得られる支援を一緒に探し，つなげられるような長期的な支援を可能にする「居場所」の運営が必要。

また，子どもだけの支援にとどまらず，家庭で子どもに寄り添う親への支援，親たちが話せる場として「親の会」を継続開催することの重要性を改めて感じている。

■中高生への自立に向けた伴走支援

自ら選択した進路での新たな生活が始まる義務教育終了後，公的な支援は大きく変わり支援が行き届かない現状がある。生活圏も広がり，可能性とともに不安と危険も大きい。高校生活ではアルバイトと学業の両立，その後の進路選択など，成長の過程に応じた対応が望まれるため，社会人として自立するまで一緒に伴走する大人が必要である。

■コミュニティソーシャルワークの必要性

これらの様々なご家庭，子どもたちに必要な支援を届けるためには，コミュニティソーシャルワーク（個別支援と，地域支援をチームアプローチによって総合的に展開する実践）が不可欠である。

スーパーバイザーによるカンファレンス，ミーティング，地域資源の把握，地域連携の強化を進めることが，利用者の支援となるよう継続する必要がある。

■引きこもりの若者への就労の足掛かりとなる場へ繋げる

当事者は就労の意欲低下だけでなく，自己肯定感も低下傾向にある。スモールステップから無理ない社会参加への第一歩として中間的就労支援が必要である。アルバイトや就労につなげるための社会体験の同行。ジョブコーチの指導と伴走によって，安心して就労に取り組める環境づくり。自立生活を目指して，宿泊できる住まいの確保，自炊経験。本人の希望に応じて個別の丁寧な対応が求められる。

1-2　総括

■自立支援事業

日中は不登校の子の居場所として，夕方以降は中学生以上の学習支援，料理＆食事＆若者の交流サロンの場として，夜間は緊急対応の場として「ゆいゆい」を拠点に事業を展開できた。民生委員に若者の交流サロンの周知を図ったことで潜在している若者の存在を把握できた。また本事業において目標とする自立は，就業による経済的自立に限らず，日々の生活における自立，親からの精神的な独立，社会に関心を持っているかなど，多様な要素を含んでいる。

食の確保について，中高生や若者にとっての「食」は栄養摂取に留まらず，生涯に亘り，心身ともに健康な生活を送るための基本となる『生きる力』を育むために重要な要素である。コロナ禍という「共食」が厳しい状況にあっても，顔を合わせて同じものを食べ，それぞれが五感で体感しながら，同じ時間を過ごすことは，心の共有に拡幅される。来所時の手洗い，検温，飲食時以外のマスク着用，換気を基本に，人数制限を設け実施し，中高生や大学生ボランティア等の食の確保に寄与した。また当団体の主催するひとり親家庭の親子食堂や，地域の子ども食堂と連携・協働し，自立支援の必要な若者の食の確保に努めた。

中間的就労支援は，不登校，引きこもり，家庭環境，精神疾患，ヤングケアラーなど様々な要因から，正規雇用の契約に至らない若者の就労支援を目指した。当団体内では，保育事業，食育・産後ケア・親子食堂などの調理補助，事務作業などに従事していただいた。また，ジョブコーチによる支援，本人とご家族の意向を尊重した中長期計画の中での就労支援を実施した。また，居住地域からの通いやすさ，短時間からの就労や，労働環境にご配慮いただける就労が可能な場合，業務内容説明や就労時に同行する支援も行った。

この間，就労での悩みや，転居，など自立に向けた生活の中で SOS に寄り添い，夜間対応，宿泊対応をした。また，中学３年生の進学相談，資料請求，高校見学同行，小学生の支援級見学同行や施設見学，発達支援施設の紹介，など進級進学についても不登校の居場所利用と並行して行った。

■家族まるごと支援事業

不登校の居場所の運営は４年目となり，教育委員会と市内小中学校との連携強化に努めた。学校，教員，発達支援コーディネーターの皆さんに居場所を周知し，これを契機にしたお問い合わせや見学が増えた。また，利用者の若年化が顕著で，いずれも様々な課題を抱えていることがわかった。このため，アセスメント，利用時間の観察を通して，カンファレンスでの個別事例検討を行い，最善の支援を急ぎすぎずに提供できた。

中学３年生の利用者には，本人の希望もあり登下校に付き添いや送迎を行った。これも徐々に不安が解消されると一人での登下校が増え，受験時の自信にもつながった。居場所での学習時間を確保したり，若者サロンの利用ではバランスの良い食事を摂り，大学生からの様々な体験談を聞いたり，学習習慣を継続できた。

親（親父）の会では，対面での対話を重視したため，利用者の意向も含め感染拡大の中

でもできる限り対面開催を継続した。継続利用者にとっては「不登校」というキーワードで集まるなんでも話せる場所であり，初参加の方には，情報収集や気持ちを整理したり吐露できる場所であった。

公開講演会とした研修は，会場をオンライン中継するハイブリッド形式での開催にチャレンジし，多くの方にご参加いただくことができた。また，市内小中学校への児童全戸，教職員，市内近隣市の行政・施設，へのチラシ配布，SNS などの活用から広い周知ができた。これによって，全国からの申し込みがあり，今後の情報配信をご希望する方，親として利用する方の新規獲得ができた。

■コミュニティソーシャルワーク事業の展開

若年化とカンファレンスの活用は先に述べたが，課題のある子どもたちの日々の接し方については，コーディネーターから助言をもらうことで，スタッフ間の共通意識をもつことができた。またミーティングの定期開催で，素早い対応が可能になり，新しいアイディアも迅速に取り入れられた。具体的には，学生ボランティアの確保，受験生の学習支援の拡充，市内小学校体育館での体遊び，などである。

支援者，経験者，ご家族など誰でも興味関心があれば参加できるオープンミーティング「そらカフェ」は，支援者の方の感染に最大限配慮し，中止回数が多かった。しかし，オンラインでの開催を取り入れ，職場からご参加いただけることで一定数の参加者を獲得していた。地域課題について語れる場であったが，次の支援につなげるには至らず，次年度以降支援者と専門家に特化した「支援者協議会」発足に向けて準備中である。

２　事業実績

柱立て：１　10 代，20 代の自立支援事業

１-１　住居の確保

宿泊利用，居場所運営する賃貸住宅を 24 時間活用，時間外 SOS 対応にも活用
宿泊利用　７泊
SOS 対応での利用　８回

１-２　食の確保

若者サロン時の食事提供，調理補助での就労支援
火曜日　39 回　食事提供数　185 食
サロン利用者数　のべ 222 人
学習支援，学生ボランティア　のべ 74 人（居場所含まず）
料理体験　８回　３名のべ 15 名　付き添い含む母参加のべ７名

【K さんより】～ 就労支援，若者サロンをご利用いただきました～

料理は家ではする機会がなく，家族がしているところを観察することもなかったので声をかけられた時は不安でした。

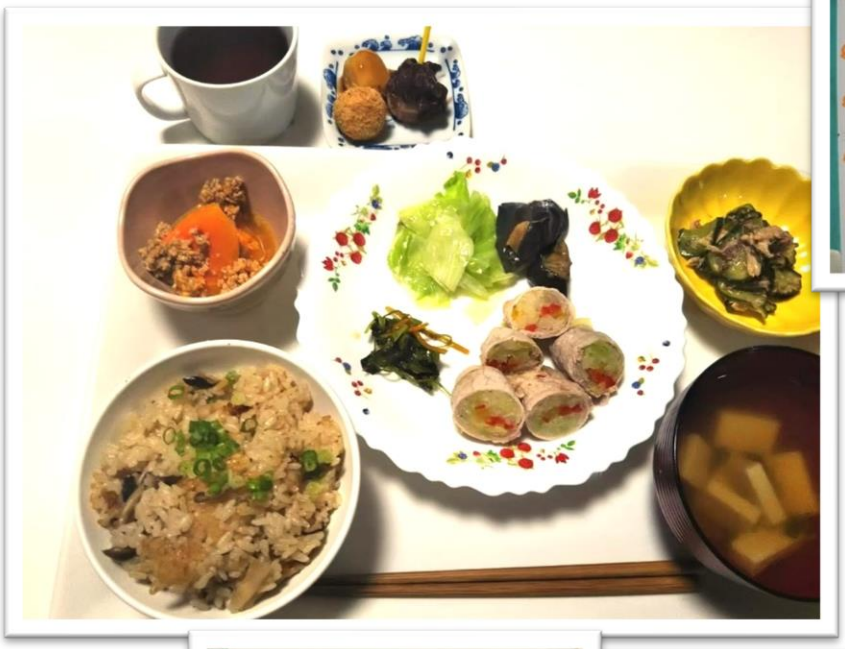
最初も今も，内容は簡単な調理の手伝いやお皿洗い程度です。でも段々切り方や大きさがどれくらいか聞かなくても分かるようになってきて，ゆっくりですが少しずつできることが増えているのを実感して自信になります。

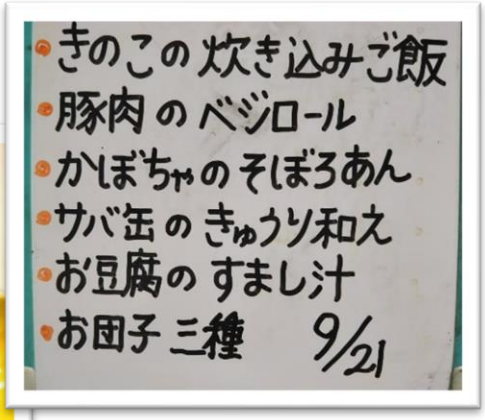
ほかには分からないことがあっても自分から聞けるようになったり，お手本を見せてもらえれば基本的なことはできる自分の傾向が分かってきて安心しました。

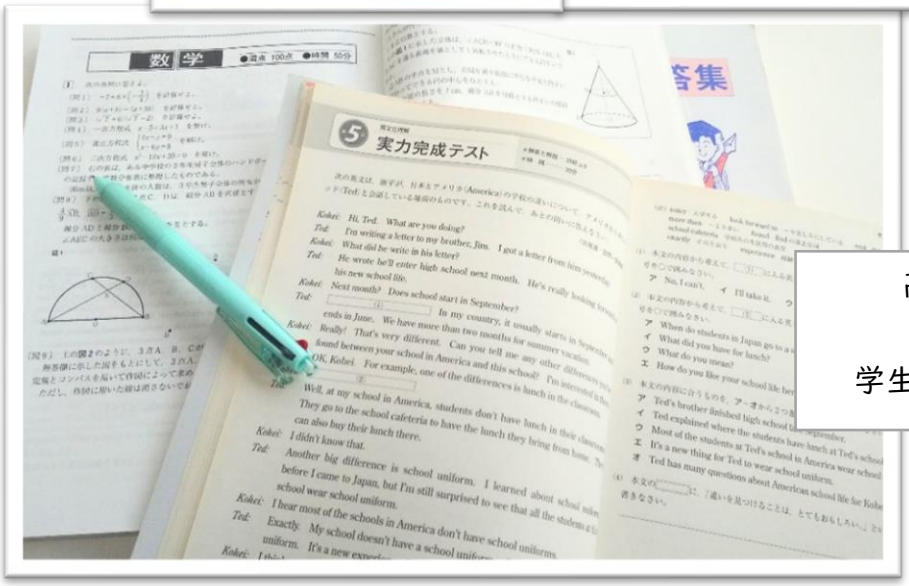
ここではたくさんの人がいるのですが，みんなが面白かったり優しく教えてくれたり褒めてくれたりしてくださるので，対人面でも怖がることがなくなったと思いました。

まだ自分では何品も作るのは難しいですが，一緒に料理している人が作っているのを見ると少しは役立てているのかなと思うし，ありがとうと言ってもらえるのでとても達成感があり楽しいです。

若者サロンの食事は
栄養満点
おいしさいっぱい！







高校受験に向けて
学習支援を拡充
学生ボランティアの協力

1-3　中間的就労支援（就労訓練）

ジョブコーチ　１名のべ 15 回
就労支援（土日の一時保育，火曜調理補助，木曜作業）　３名のべ 127 回
プログラミング講座　11 回　４名のべ 16 名参加

1-4　権利擁護支援

同行支援：展示会，ハローワーク，就労見学，アルバイト，就労体験，病院　など　15 回
ジョブコーチとの打ち合わせ　３回
ケース会議（精神疾患のある事例）　４回

様々な就労体験
～稲刈り～

就労支援Ａくんの所見（抜粋）　　ジョブコーチより

大きな変化としては，この一年間の就労を通して本人が自分自身の精神的な成長を実感しているという点だと考えられる。振り返りの際に，その時の反省点を挙げ，それに対する改善策も出し，次回にはそれを意識することで改善に向かう，そして新たな課題を見つけそれに向き合うというサイクルを毎回行っていた。一年の後半にはそれを援助者が提供するのではなく，自分自身で行っている様子も見られた。

また，本人の家庭環境の複雑さに起因する，不安や悩み，日々のストレスなども何度か話していた。それに関しても，援助者が相談に乗り助言することもあったが，家庭の中で解決する策を模索したり，本人の捉え方を変えたりする中で仕事に影響が出ないように工夫していくようになっていた。（中略）

本人は，仕事をして対価を得るということの中にも，やりがいがあったり，楽しい・嬉しいと思う瞬間があったりすることを知った，と話していた。そのような仕事を続けていく中で自分自身が精神的・社会的に成長しているという実感は本人の自己肯定感の向上や躓いても再起するレジリエンスの向上にもつながると考えられる。

今後，新たな就労に挑戦していく本人にとってこの一年間の就労の経験は自信になり，その先の将来，本人が社会的に自立していく際の基盤になるのではないだろうか。

【参加者Ｔさん】

プログラミング教室に通わせて頂き有難うございました。

特にプログラミングで音楽を作る授業が楽しかったです。音階を一つずつ上がったり下がったり出来る言語があるのを聞いて最初びっくりして自分にも出来るかなと不安がありましたがやってみたらとても楽しくて休憩も忘れてしまうくらいにのめり込めました！

難しい授業もありましたが最後まで先生は一生懸命付き合ってくれて本当に感謝しています。理解するのに時間がかかるタイプで，具体的に「こうゆう風にするんだよ」と丁寧に教えて頂き，とてもわかりやすかったです。

今後またこのような機会があればぜひ参加したいです。

とても楽しかったです。

0101010101010101010101010101010101010101010101010101010101010101010101010101010

【参加者の保護者さま】

若者の自立支援事業に参加させて頂き，ありがとうございました。保護者として深くお礼を申し上げます。

息子は発達障害が有り，現在は家庭と就労移行支援施設を往復する毎日です。元々は不登校も有り，新しい場所や人の多い場所は苦手でなかなか入っていけません。

プログラミングに興味が有り今回は勇気を出して参加しました。

先生とも色々なお話が出来て，プログラミングは勿論ですが，何より嬉しかったのは家庭以外の場所でその時間を楽しむ経験ができた事です。今後何かにチャレンジしていく自信にもなったと思います。

青年の居場所はなかなか無いのが実情です。このような活動が今後増えてゆく事を祈っております。

ありがとうございました。

0101010101010101010101010101010101010101010101010101010101010101010101010101010

Episode

ある日の夕刻，いつものようにゆいゆいで夕食を作っていると，二十歳を越えたＮさんが茹で立てのインゲンを見ながら「思い出すね…ごま和え」と呟いた。Ｎさんは“不登校の居場所”を開設した4年前から利用している。今では仕事を持ち，一人暮らしをしているが，出会った当初は家事を手伝い，アルバイトをしていた。

居場所スタッフとしてＮさんと関わっていた私は，土曜日だけお弁当が必要なＮさんのために，毎週お弁当を手作りした。とりわけ，和食を好むＮさんのために用意したおかずは，玉子焼き，肉巻き，唐揚げ，ひじき煮，切干大根，インゲンの胡麻和えなどのシンプルなお惣菜。当時，土曜日の12時半を過ぎると必ずラインで感想が届いた。

「おいしかった！」，「お肉うまかった！」「ごちそうさま」，「ありがとう」など。その中に「作り方教えて」というメッセージが届いたことがある。それは『出汁巻き玉子』と『インゲンの胡麻和え』。その数日後，一緒に買い物に行き，料理を楽しんだのは言うまでもない。

すっかり私の記憶からは遠ざかっていたエピソードだが，Ｎさんがインゲンを見て『思い出してくれた』という事実は，私の記憶を蘇らせると同時に多いに希望を与えてくれた。
五感で培った食の体験は記憶に残る。

当時，家出や自傷行為を繰り返していたNさんとは地域の子ども食堂で出会った。少しずつ他者との信頼関係を築き，安心して眠れる場所を確保できた時，前向きに生きることを望み始めた。高校での学び直しを決意し，昨秋，優秀な成績を修め卒業した。この4年間，紆余曲折を経ながら自分らしさを取り戻してきたNさんだが，それらは生きていく上での過程に過ぎない。この先も様々なことがあるだろう。これからも人として寄り添っていきたいと強く願う。

柱立て：2　家族まるごと支援事業

柱 2-1　課題を持つ親子の支援

●日常の困りごとに対応しながらご家族を支援

・様々な体験の促進，運動不足解消，交流を目的に様々な企画を実施した。
・個々の衝動的な行動に対応できるよう緊急時の宿泊体制を整えた。
・親支援，食育，体験学習として，ランチを安価（1 食 200 円）で提供した。
・近隣在住の大学生ボランティアの協力を得た。
　子ども達と遊びを通した交流，スタッフとの親睦会。
・大学生の見学，実習の受け入れ。
・24 時間体制の対応
　窓口　平日は居場所専用電話 9：00-16：00
　　24 時間対応　事務所転送電話
　　メール，LINE 登録者の対応

【取り組みと記録】
♪　問い合わせ，見学　27 件
♪　登校支援 65 件　送迎 37 件
♪　お出かけ＆ものづくり　10 回 31 名参加
♪　パステルシャインアート　3 回　11 人
♪　Ｎｏお弁当 day　11 回
♪　外出，散歩，地域の畑散策，体育館あそび　86 回
♪　保護者面談　10 件
♪　ランチ提供　116 食
♪　大学生ボランティア　のべ 49 人（学習支援含まず）
♪　大学生見学・研修の受け入れ　13 人

不登校の居場所
184 日/年間
のべ **574 人利用**

柱 2-2　当事者グループの支援

●不登校の子どもの居場所の運営

平日 9 時 30 分～16 時開所　年間
月，火，木，金　　開所日 184 日
利用者実人数 21 人　のべ 574 人　平均利用者数 3.12 人/日

【成果と課題】
　成果と課題は常に表裏一体で，成果が出たと思うところに常に葛藤や悩みがあったように思います。「楽しい！また来る」と言ってもらえる居心地のよさを提供できたことへの喜びと，居場所に通うことが他の活動を妨げないかという思い。ご家族の願いや思い，そして子ども本人がどうしたいのか，何が好きなのか嫌なのか，それらを感じとってあげられているのか。今後の活動に向けて，成果と課題は支援者にとっての宿題になっています。

スタッフのみなさんはとても親切で，いつもあたたかく迎えてくださいます。
息子は集団生活が苦手で自宅で過ごす事が多かったのですが，居場所の優しくてアットホームな環境でお友達も出来てのびのびと過ごせているようです(*^^*)
また，心配な事や困り事なども気軽に相談出来るので私自身とても気持ちが楽になりました。
<小学１年生男子　ご利用のご家族様より>

（上）NO お弁当 day のサンドイッチづくり
（左）夏の水風船づくり
（右）公園でバスケットボール

サイダーとラムネで
噴水ポンチ！

料理？
理科の実験？

スイカ
ジュース

【“食”を通して】

居場所における“食”は“食べる”にとどまらず，コミュニケーションツールでもありました。「好きな食べ物は何？」から始まる会話で，様々なことが見えてきます。“食”のこだわり，「いただきます」「ごちそうさま」，色や触感，好きなもの嫌いなものをどんな風に捉えているのか，ご家庭の様子，好みの変化，それらを言葉で表現する様子。お互いを知ることにもなり，子どもたちとの最も身近な話題として存在し，自分自身を知ることにもつながったのではないでしょうか。

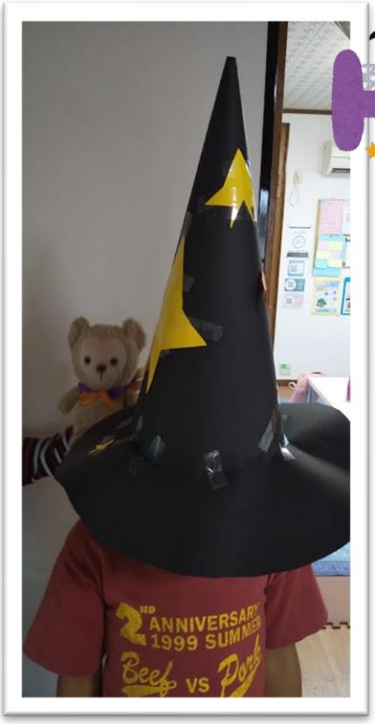
また，食事に対してこだわりや思いが強い場合，給食が決して楽しい時間とはならず，それが不登校の一因になることも少なくありません。“食べること”は体づくりでもあり心も健やかにします。コロナ禍においても，誰かと一緒に食事する，飲み物を飲む，おやつの時間を一緒に過ごすことは，居場所においてとても大切な時間でした。

季節を感じる～ものづくり～

【創作体験を通して】
“季節を感じよう”を今年度の「ものづくり」のテーマに掲げて活動しました。
「ひだまりの里きよせ」相談支援センター木村さま，西村さまにご協力いただきました。

梅雨の時期は，透明ビニール傘にペイントしました。
素材探しにお散歩…大きな葉っぱ，
カタツムリも発見してみんなで飼いました。

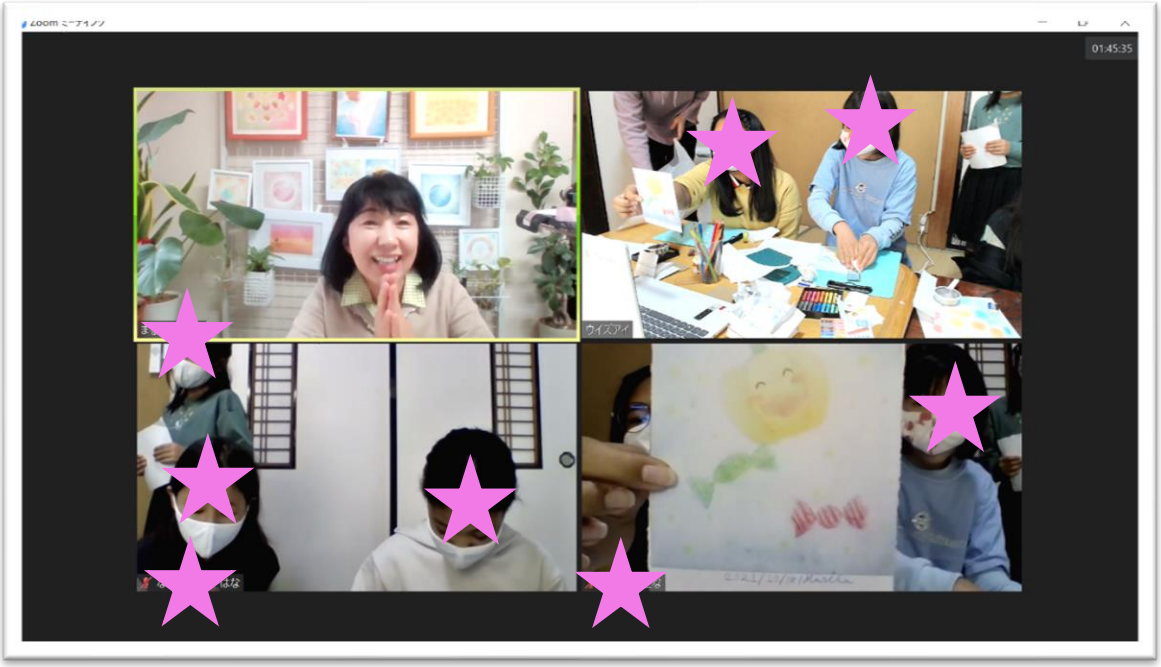
クリスマスは，アドベントカレンダーを布や紙コップで作って，お菓子を入れました。
お正月飾りは，段ボールや厚紙を駆使して大きな「熊手」を作りました。
３月は，色水を入れた水風船を“ばしゃっ”と投げて割り，不思議な模様のアートが完成しました。



ハロウィン風に仮装して，“サンハウス”へお散歩。
「Trick or Treat！」みんなでお菓子をもらいました。

体育館あそび
市内２校にご協力いただきました

「学校に通う」というマジョリティーから外れた子ども，そしてその家族をとにかく受け入れてくれる場所です。今後のあり方について子ども本人も親やきょうだいも戸惑い模索する日々ですが，寄り添ってくれます。
一条校に通えなくなると　何をするにも公的なサポートがなく，つくづく世の中は多数派のために設計されていて，少数派は生きづらいと感じています。
ですが，こちらのように手を差し伸べてくれる人や機関もあり，どれだけ救われているか。
子どもがどこかに活路を見出すことが一番大事なので，そのために今後も　大いに信頼し，相談し，利用させてもらい，いつか笑顔で飛び立ちたいと思っています。
<小学１年生男子，小学3年生男子　ご利用のご家族様より>



パステル
シャインアート
優しく♡可愛く

オンライン初体験

【“体験”を通して】

　さてと，今日は何をしようかな。居場所は時間割がないし，チャイムも鳴りません。何をしてもいいし，何もしなくてもいい場所です。（ルールは少しありますが。）それでもおせっかいな居場所スタッフはいろいろ質問をするし，あれやろうこれやろうと誘います。

公園や体育館で思いっきり遊んで汗びっしょりになる子たち。
「疲れた！のど乾いた！お腹すいた！」
　（内心：「やった～」）これが聞きたかった！
お迎えの時のスタッフ：「お母さん，すみません。今日遊んでいたときにズボンに穴が開いてしまったんです。」
お母様：「あらまあ，思いっきり動いて遊んだんですね。」
その時のお母様が嬉しそうに笑っていたのが印象的でした。

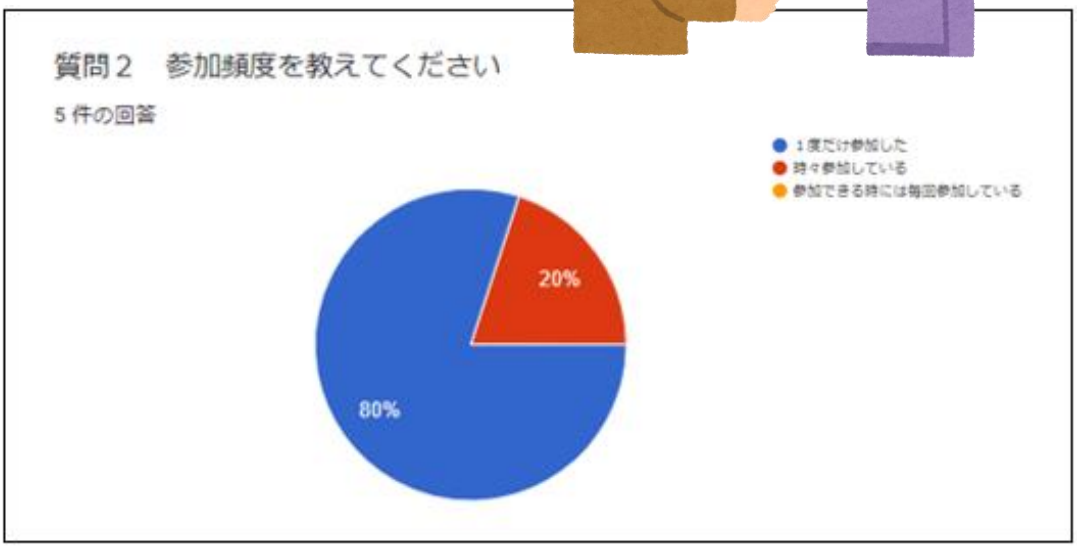
柱 2-2　当事者グループの支援

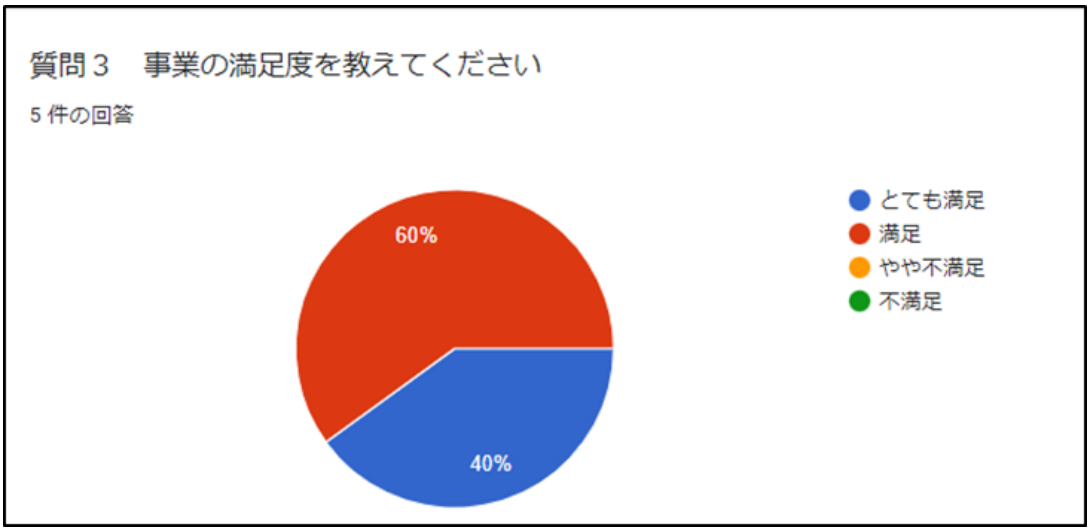
●不登校児のご家族，不登校や引きこもりの経験者をつなぎ，
ネットワークを構築するために，「親の会」「親父の会」を定期開催した。

「親の会」第３日曜日２時間「親の会」10 回
　のべ 30 名参加　スタッフのべ 12 名
「親父の会」第４日曜日２時間「親父の会」８回
　のべ 24 名参加　スタッフのべ 16 名

「親の会（ウイズ YOU），親父の会」は，わが子が不登校の親が集まる会です。
目的は，集まった皆さんがリラックスしておしゃべりすること。時には情報を共有したり，悩みを相談したり，近況報告だったりしますが，目標や考え方が一緒というわけでなく，集まる方も毎回メンバーが違うので，その都度違った内容になります。
たどりつくまでに，おつらい経験をされる方も多く，自己紹介から涙される方もいます。思いをつぶやいて「そうそう，そうなんだよね」と頷いてくれる人がいる場所です。
お父さんたちは，お母さんたちとはまた違う思いを抱えています。子どもと過ごす時間が少なかったり，学校とのやり取りはお母さんに任せている場合も多いようです。会の中では，夫婦の役割分担や一緒にしていること，ご自身の子どもの頃のお話なども話題になりました。
「一緒にいかがですか」とご夫婦の会も開催しました。
これらの会は，温度感を大切にしたかったので，すべて対面形式で開催しました。

【親の会・親父の会　アンケート】





【親の会・親父の会　アンケート　自由記載より】

◇悩んでいるのが自分だけじゃないと思えました。色々な不登校があるのだなとも思いましたが，同じような方ともお話できて少し勇気を頂いた気がします。

◇和やかな雰囲気の中，自分の思いを話せたこと，他の方のお話も聞き，考えさせられたり，気持ちの共有を出来たことが良かったです 。

　不登校の親の会に参加するのはウイズ YOU さんで３回目（ほかの場所で２回参加）ですが一番落ち着けました。

◇皆さんとても温かく，話しやすいです。

　お子さんが不登校で悩んでいる他の保護者と話すことで精神的に救われました。ありがとうございました。

　情報も得る事ができたし，一人で悩む事も多いので。

◇お茶や，お茶菓子まで出てきてビックリしましたが，有り難くいただきました。

◇皆さん穏やかで，ゆったりとした雰囲気がとても良かったです。是非また参加させていただきたいと思います

◆仕事でなかなか参加出来なくなってしまったのが，ちょっと寂しいところです。他の曜日もあったら嬉しいです。

柱立て：3　コミュニティソーシャルワーク事業の展開

柱 3-1　定例ミーティング，カンファレンスの不定期開催

25 回　のべ 256 名　オンライン，紙面参加を含む

柱 3-2　連携施設，学校，行政への訪問，チラシのお届け

偶数月６回　のべ 220 回（一部郵送）
他施設訪問，見学　８回
連携施設との打ち合わせ　随時　15 回（ケース会議をのぞく）

柱 3-3　アウトリーチ　６回

アウトリーチ事例
・就労支援利用者の　家庭訪問，面談，親への近況報告
・精神疾患を持つ利用者の　ケース会議
　児童相談所，学校，医療関係者
・不登校の居場所利用者の　家庭訪問，面談，送迎

スキルアップにも注力

ミーティング
カンファレンス
ケース会議

低年齢化，学校との連携で見えてきたこと

【学校に　行く・行かない・行きたい・行きたくない・行けない】

不登校の原因は様々です。

原因が明確になっているケースのほうが少ないように思います。

【サポートが必要なお子さん】

学校に行きたくない，体調不良や食欲などに影響が出てきたときに，お子さんの持つ課題がわかってくることがあります。

主なものは，発達障害，学習障害，摂食障害などです。“障害”というワードには抵抗がある方も多いと思いますが，得意なこと苦手なことがはっきりしていたり，とても大切にしたいものがあったり（こだわり），繊細で敏感だったり，と良い悪いではなくその子自身の“個性”です。

もし，支援を受けることで少しでも毎日の生活が楽になったり，楽しく過ごせる時間が増えるのであれば，専門家の支援を活用することも一つの手段です。

その子に合った支援・指導を受けられれば，将来必要な社会スキルの習得が，無理なく可能になるかもしれません。社会スキルの習得は，将来の社会生活を送るうえで不可欠です。集団生活がつらい場合，違う場所で社会スキルを身に着け，成功体験を増やすことで自己肯定感を高めてほしい。これは何歳になっても可能です。

【支援級・進路】

～清瀬市立小中学校 14 校の場合～

きらり：小学校における特別支援教室

サポートルーム：中学校における特別支援教室

特別支援教室は，すべての学校に設置されています。発達障害のある児童・生徒がその在籍校で特別な指導を受けられる制度です。（清瀬市教育委員会資料より）

利用するには“登校”していることが前提になるため，必要だと思われる不登校のお子さんの利用が制限される場合があります。

中学校へ進学するとき，小学校で設置されている情緒学級はありません。知的障害がなく，それでも学習面での特別なサポートが必要な子たちへの支援の充実が待たれます。

【答えはない】

スタッフ間でも意見はわかれます。

その子にベストな選択はなにか。一緒に考えさせていただきたいと思います。

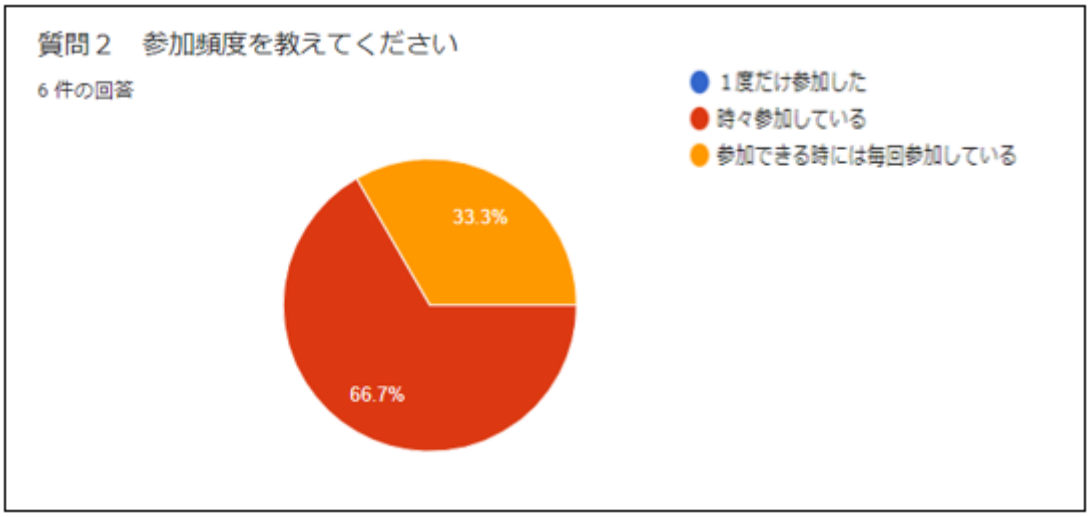
柱 3-4　「そらカフェ」オープンミーティング，支援者向け公開講座の開催

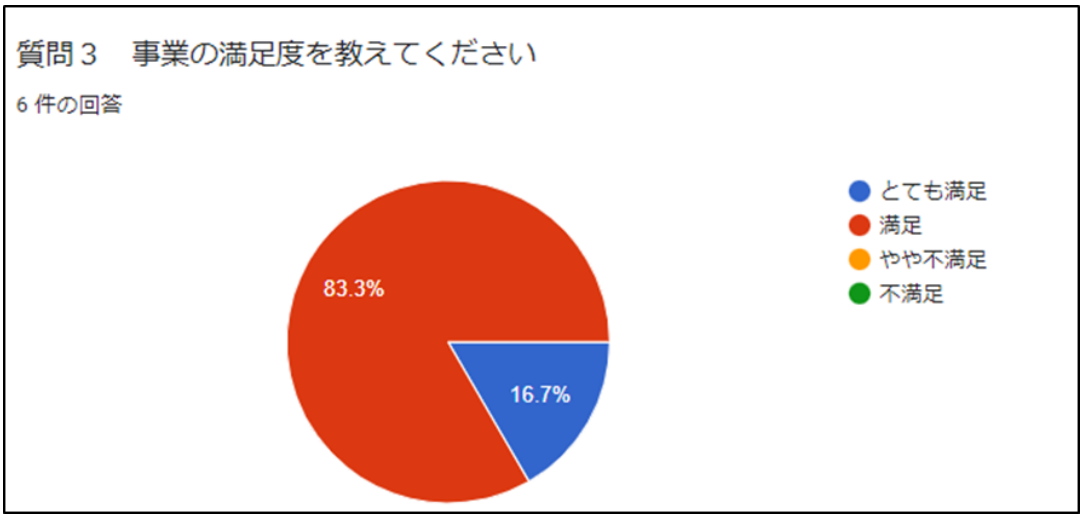
●そらカフェ　５回　のべ 18 名参加　スタッフのべ 10 名

「そらカフェ」は，不登校，ひきこもり，当事者，ご家族，教育関係者，支援者など，どなたでもご参加いただける開かれた“オープンミーティング”です。地域の方が思い思いに直面している課題について話したり，情報共有をしました。コロナ禍にあっては，支援者の方からのご要望もあり，オンラインでの開催を試みました。

一方，課題についての話し合いに進展が見られず，堂々巡りになってしまう課題もあり，今後地域の支援者が連携していく場とそこでなにをどのように話すのかについて，次年度の課題となりました。

【そらカフェ　アンケート】





【そらカフェ　アンケート　自由記載より】

◇自分の事業所だけでは得られない情報がいつも提供されていて満足です。
◇職場とは違う方の意見，思いをきけることが面白かったです。
◇感じていることなどを自由に話せる雰囲気，受け止めあえる雰囲気があること。また，色々な立場の方からの話を伺えることは有意義です。
◇たくさん話せる。 現場の声を聞ける。
◇親だけ・支援者だけ・当事者だけ…では無く，いろいろな立場の方が参加して交流出来る場所は貴重だと思います。
◇色々なことをやっていて，こちらも頑張らないと。とパワーをもらっています。 ありがとうございます。

◆課題を共有できるが，なかなか解決策，次の支援にはつながらないで終わってしまう。
◆もう少し当事者（ご家族）の参加があるとより具体的な支援のアイデアが生まれると感じています。
◆オンラインを取り入れていただくと，参加のハードルが下がる部分はあります。
◆対面で，もっといろんな方と出会いたいです。
◆コロナ禍によって，ZOOM の良さ・対面の良さ，どちらもあった事と思います。自分は対面での参加が話しやすくて良いのですが，ZOOM の方が安心だったり参加しやすい方もいたのではないでしょうか。 今後も ZOOM 併用又は対面の回・ZOOM の回と交互に開催するなど，オンラインも活用した取り組みが出来ると，より参加者の幅が広がるかもしれませんね。

●支援者向け公開講座の開催

参加 78 名
（会場 25 名+Zoom53 名）
スタッフ 11 名

対面＆Zoom 同時配信
アーカイブを 1 週間限定公開
（申込者全員）

◆広報・配布◆
市内小学校 9 校
市内中学校 5 校
　全校の教職員，家庭数

ほか 51 施設
（団体・個人）

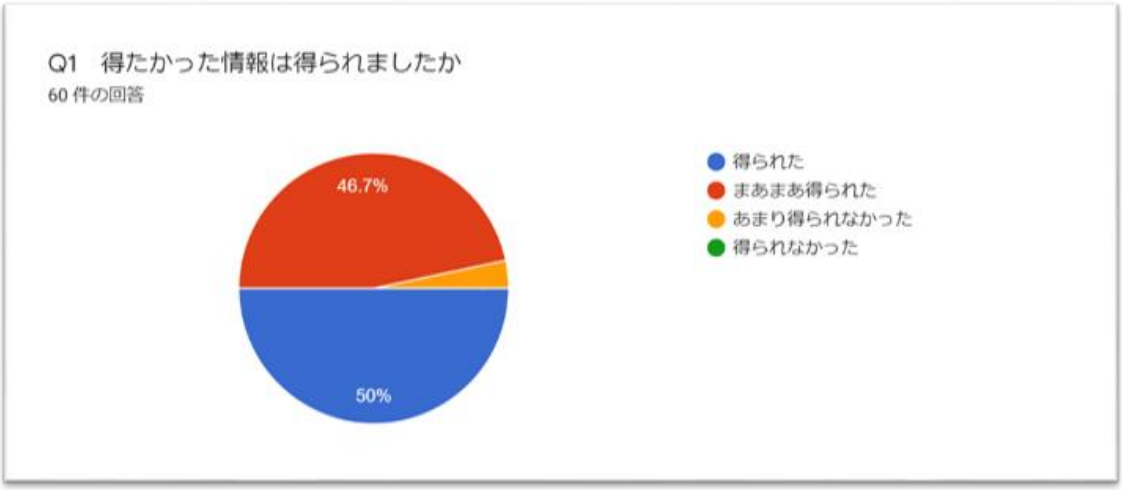
チラシ配布
計　約 6,000 枚

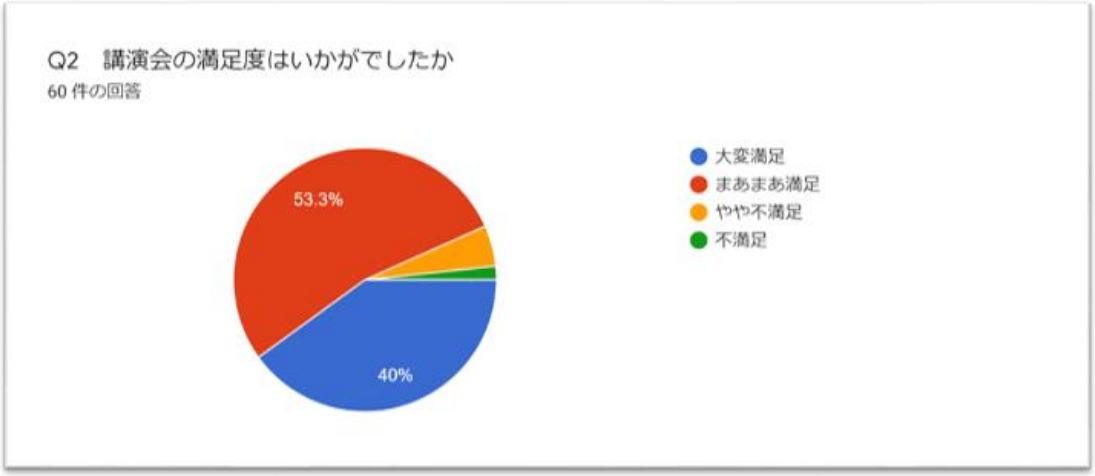
来場とオンラインを
直前まで迷われた方が
多くいらっしゃいました

25 名の方に
ご来場いただきました

ロビーには
活動紹介コーナーを設置

アーカイブ配信動画
終了後 1 週間公開しました





【講演会感想　アンケートから抜粋】

◇本日はどうもありがとうございます。事前に拝見した資料も含めてご自身の体験や長年の経験に裏打ちされた非常にわかりやすい講演内容でした。本人のことを問題視したりせず本人が持つ葛藤に寄り添い「意識と無意識の統合」や「自分に合った生き方や人生観」を見守ることの大切さを感じました。

◇土日にオンライン開催は，参加しやすく助かりました。ありがとうございます。

◇頭では理解出来ていても，個人個人のタイミングなど対応の難しさを感じました

◇我が子にも不登校時期があり，興味を持ち講演会に参加させて頂きました。不登校ひきこもりはエネルギーが無くなっている状態。友達や学校関係，家族内問題，思春期，社会の状態。色々な要因があると思いますが，一番辛いのは本人。それを受け入れ支える家族の精神的負担も計り知れないと思います。しかしまだまだ世間の目には偏見もあり理解も少ない。本人と家族が孤立を防ぐ為，また本人が生きていく為の土台を作りエネルギーを回復する為，ウイズアイの居場所のような所は地域の中で大切な存在だと思いました。

◇色んな問題を含み絡み合っている場合も多いので，難しいと感じます。仕組みを変えて行く必要がありますね。保護者支援でとても大切な内容が多かったと思いました。

◇地域の居場所をリスト化する。ぜひやってほしいと思います。ありがとうございました。

◇現場でお子さんの支援をしていて，登校支援のプレッシャーをかけていたなと反省しました。本人の心の葛藤を理解しきれずに押しつけてしまうことも多かったです。一方で，待つ側はどこまで積極的な支援をしていいものか難しいと思いました。

◇なぜそうなったのかわからないため，学校に行かせる事しか考えていなかった。（自分が中学時代楽しかったこともあり。）お話を聞き，本人にはかなりひどい事をしたと反省している。わかってはいても普通と言われている同級生と比べ見下していた事に恥ずかしさを感じる。

◆Zoom 経由での参加でも講演内容そのものは充実しておりましたが，会場音響との相性や配信機材の不都合で視聴しにくかった点だけは残念でした。

◆始めの方が音声が聞こえなかったり，ハウリングしていて，時間がかかっていたようなので，始まる前にオンラインとのマイクテストを何度かやってもらえたら良かったのかな，と思いました。

3　報告書に寄せて

「子どもの居場所ゆいゆい」にかかわって－不登校の子どもに対する支援の課題

コーディネーター　福本麻紀

清瀬市の不登校児童生徒数の実数については公表されていませんが，居場所を運営する側の実感として不登校の児童生徒数は年々増え，低学年化も目の当たりにしました。このことは全国の統計でも同様な傾向がみられます。

一方，市内にはフリースクールや不登校の子どものための居場所が開設し，学校以外の選択肢が増えつつあります。

昨年度「不登校の子どもの居場所はどうあるべきか」について，ゆいゆいのスタッフと議論を重ねてきて次のような課題がみえてきました。

１点目は，不登校の子どもの居場所が増えるに伴って，各施設との役割分担など連携の必要性がでてきたことです。そのためには，公的な機関，民間事業者，NPO，ボランティア団体が参加する連絡会を行い，各施設の情報共有を行うことで，保護者や子どもに，各施設の情報を伝えやすくなります。

２点目は，保護者や子どもが学校から孤立しており，居場所の情報を届けることができていない点です。もちろん担任の先生から情報提供され居場所につながる事例もあります。しかし，保護者は遠慮してなかなか学校に相談できない場合が多いのです。居場所などの情報を，不登校で悩む保護者と子どもに伝える機会を増やしていくために，ゆいゆいのスタッフによる学校での出前相談も考えられます。

３点目は，不登校の子どものうち，閉じこもり傾向にある子どもに対しての働きかけの課題です。

居場所に通っている子どもたちは，保護者の勧めで一度見学に来て，「ここなら来てみたい」と子どもの意思で参加します。ところが，保護者が「行かせたい」と思っても，一歩も家の外に出たがらない，出ることができない子どももいます。無理な働きかけはより閉じこもりを強めてしまう恐れもあります。よってゆいゆいスタッフだけではなく，学校，子ども家庭支援センター，スクールソーシャルワーカーの方々と連携して計画的に進めていく必要があります。

国では児童福祉法改正案が審議中です。改正法案には「児童の居場所づくりの支援の創設」が新規制度として盛り込まれています。これは，「不登校の居場所」が現行制度上ないなか，福祉医療機構の助成を受けてきた「不登校の居場所」の意義が社会に認められた証と思われます。

地域社会の求めに応じたサービスの開発を行う開拓者精神をこれまで同様ウイズアイに強く期待していきたいと思っております。

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 相談支援センターひだまり
相談支援専門員 西村純子

〇そらカフェ
今年度は１回参加させていただきました。日ごろは家族や周囲がご本人に対しての支援の必要性を感じ，相談に来る方が多いですが，その場合医療に繋がって診断を受けている方が大半です。でも，「発達障害だから。〇〇だから。」と障害名でご本人を見るのではなく「個別的にご本人の生きにくさを捉え見守ることの大切さ」を参加した際の皆さんのお話でとても共感しました。色々な立場の方と「地域について，子の成長について考える」貴重な場となりました。

〇ものつくりタイム
アート担当職員と 2 名で 6 回参加しました。今年は「季節を感じよう！」をテーマに開催しました。中でも夏のすいか割り・ハロウィンは参加者も多く盛り上がりました。特にスイカ割りでは，始めよそよそしい雰囲気だった子どもたちがスイカが割れると歓声を上げ，目を合わせ喜ぶ姿は一体感が生まれ，見ているこちらも幸せな気持ちになりました。
時を共有することの大切さを感じ，こどもにそういった機会を増やすことが大切だと思います。毎回，参加者が違う中，試行錯誤でしたが，まずは「やってみよう，楽しもう」とゆいゆいの職員さんたちがゆるやかにこどもたちに関わる雰囲気が良かったです。
始めは緊張した様子だった子も終わるころには，夢中で楽しみ，迎えに来たお母さんに自慢げに完成品を見せている姿に頼もしさを感じました。
私たちは，家族やゆいゆいの職員さんではない立場でこどもに接することで，その子のコミュニケーションの幅が広がれば。経験になれば。と思い参加していた部分もあったのでそれが出来ていたらうれしいです。

〇自立支援
週１回，１時間 30 分ほど来所してもらい，お仕事の練習をする。という形で始まりました。
利用者さんの作品を使いバック作りをお願いした時には「やってみたい」と言ってくれたものの，ミシンを使ったことがなく，１から教えて覚えてもらいました。回を重ねるごとにミシンも上手になり，１年経った今では教える事もなくなり，本を見て型紙作りから一人で出来るようになりお任せしています。
ご本人の様子も変化し，始めのころはゆいゆいに寄り，職員さんと一緒にセンターに来ていましたが，途中から一人で来るようになり，今ではお休みすることも減っています。
センター以外の職員との会話も増え，「色々な仕事をやってみたい。」と前向きに話してくれています。１年の活動はご本人の自信になっているのをそばで見ていて実感しています。
こちらで特別なことをしたわけではなく，のんびりとつながれる場所があったことが，ご本人の成長や自信につながったのだと思います。時間で区切ったバイトだとご本人にはハードルが高く，１年前のご本人では難しかったかもしれません。ゆるくつながっていける場所が必要だったのだとご本人を見ていて感じます。
誰でも「居場所」があれば安心出来て，頑張る原動力になるので，これからもゆいゆいさんの居場所支援は地域で重要だと実感しています。

IT スキル講座講師として学んだこと

フナダ-K-ケイティ

2021 年の春頃に地元清瀬で活躍中の社会福祉士，福本様より
「NPO 法人ウイズアイでやる若者向け IT 講座講師を探しているのだけれど」
との打診を受けまして，「平日火曜は厳しいですが週末土曜でしたら何とか」
と返答の後，土曜へ調整をいただいて初夏頃から参加希望者もいる中，講座開始の運びとなりました。
会社の新人向け研修で企業即戦力化のための講師の経験はありましたが，
地元の将来ある若者向けの IT スキル講座内容をどうするのが良いのか，
「仕事としてすぐ役立つ内容を身に付ける事を重視すべきか」
それよりも「参加者が触って楽しく感じられるエンタメ性が最重要なのか」，
と当初は手探り状態で反応を見ながら内容を進めていきました。

直近で参加くださった TM さんとは共通する趣味分野（音楽分野・ゲーム機プレイ）で話が弾んだりもしました。講座内容中で私がどうしても学んでいって欲しい「プログラミングの肝」
と言える多少難度高めな部分を優しく解説し伝えようと試みましたが，
やはり沈黙して頭をフル回転させて負荷も高めな学習内容だったかと思います。
そこで当初考えてた「スキル習得⇔エンタメ性」ウェイトを図り，
直近数ヶ月間は参加者の得意分野と IT スキル習得を兼ねた「コンピューター音楽」へと大きく舵を切った内容を学んでいただきましたが，この判断は大当たりで
参加者が大好きな分野の学習では目を輝かせて迅速に習得していきまして，
その様子に私も大変に満足して成長させてもらったと実感し，このような機会を持たせていただいたウイズアイ様，福本様にも大変に感謝しています。

櫻井千佳子

居場所，NO お弁当，学習支援

全国における小高校の不登校の児童生徒数は，令和2年度で計約23万9千人と，増加の一途を辿っています。

不登校の原因は，学業不振，友人関係が築けない等，様々であると考えられますが，この数年間「不登校の居場所」に関わっていて感じるのは，「発達に課題のあるケース」が増加しているという点です。この場合，「自分は他人とどこか違う」「上手に仲間に加わることができない」等，児童生徒自身が「何となく感じる違和感」によって学校から足が遠のいてしまい，結果，学業不振や友人関係が築けなくなり不登校に至る，というケースが多いと思われます。

こうして不登校となってしまった子供達に共通して感じられるのは，「自信のなさ」であり，学校という「社会」の中で「受け入れられなかった」という孤独感や絶望感です。

「不登校の居場所」はスタッフは2～3名，利用者である子供の人数は1～8名位と日によって様々ですが，広さは約8畳2部屋分の小さな「社会」です。この小さな「社会」の中で生き生きと過ごし，エネルギーを蓄え，自己肯定感を高め，学校等のより大きな社会へのステップとなるべく，特に以下の3点を心掛けて接する様にしました。

①子供をよく観察し，認める・ほめる・励ますを心掛ける

②個々の「学びたい意欲」をキャッチした時にすぐに応える（パソコン操作で文字を打ちたい子供にローマ字を教える等）

③きっかけを作る（調理実習の場面で，アントシアニンとアルカリの反応等の実験的要素を取り入れ，「学習のきっかけ作り」をする等）

この関わりの中で気付かされたのは，子供にはそれぞれのペースがあり，根気強く寄り添う事が大切だという点です。実際に，「不登校の居場所」を利用しながら少しずつ登校時間を増やしていった児童，利用の翌日から登校を始めた児童，居場所の利用と登校支援・学習支援を受けながら都立高校に合格した生徒等，ペースは様々でした。

また保護者に対しては，その日の子供の様子，特に「できたこと」を中心にフィードバックする事を心掛けました。保護者は兎角「子供が何もしてない」という焦燥感を抱く事が多いので，保護者が安心して子供と向き合える環境作りのお手伝いをする事も，居場所の大切な役割の一つと考えます。

今後は，特に「発達に課題のあるケース」について，学校がどの様に考え，どの様な対応策を考えているのかを知り，学校や行政，または地域といかに連携を図るかが課題と思われます。

染谷有紗
居場所，体育館遊び

今年度，居場所事業に関わらせて頂き，コロナ禍という事もあり，支援，運営等についても改めて気づかされる事が多い年度となった事を体感しました。
小学校，中学校と多感な年齢を過ごす場として，学校，家庭以外の居場所づくりを考えていく中で，本人の声に耳を傾け見守る。
現状を受け止め焦らず向き合う。
という事が大切な事であり，
また，「楽しかった，心地よかった，少し楽になった，夢中になれた」等，沢山の気持ちに少しでも気づき，共感し気持ちを分けてもらうという貴重な体験をさせて頂きました。
また，保護者の方とのお話，学生ボランティアさんとの交流，地域の皆さんからの繋がりで普段体験できない事や様々な刺激，気付きを頂きました。
学校への登校渋り，不登校は決して悪いもの，劣っている事を示すものではなく，本人達にとって必要な休息，充電，自分を見つめ直す時間や家族との時間を増やす時間等，向き合う時間。そのような時間を安心して過ごせる居場所づくりが必要だと思いました。

吉沢聖美
居場所，登校支援，ものづくり

不登校と一言で言っても，原因と現状は本人とその家庭によってさまざまです。
学校に行きたくない子，行きたいけど行けない子，行きたいか行きたくないかすら分からない子。学校に行って欲しいと思っている親，行かなくてもいいと思っている親，実に様々な事情を抱えた利用者にどう寄り添ったらよいか？
勉強不足な私にとって，彼らとどう向き合ったら良いのか分かりませんでした。
しかし令和３年度は，社会福祉士の方との支援者会議によって一人一人について話し合い
対応を明確にしてもらえたことは大きな助けとなりました。
私にとっては登校支援と言う形で，毎日学校まで付き添い，通学路での会話を通して関わりを深めた中学 ３ 年生が高校受験に挑み，晴れて高校生となった時の喜びは何ものにも変え難いものでした。不登校が低年齢化する中で，何が普通なのか普通じゃないのかが分からなくなってきた中で，私たちが出来ることは何なのか課題が山積な現場だと思います。

渡邊悠

居場所，登校支援，ものづくり

居場所事業に携わることになり，約２年になります。その中で感じたことは，お子さんがいかに安心して過ごせる場所が必要なのかということと，そして保護者であるお母さん，お父さんがこれまでどんな思いで子育てをされてきて，今後どんな風になってほしいのかという希望を知ることが大切だということです。こうしてお子さんとかかわる中で，どうしても距離が近くなってくると，「こうなってほしい」「こんなことができるんじゃないか」という期待が生まれてきます。そこでずれが生じてしまうこともありました。そこで原点に立ち戻り，大切にしたいのは子どもたちの想いであり，関わるご家族が，ゆいゆいに安心して心を開き，笑顔で過ごせるようになることなのかなと思います。どんな支援が必要か？その価値観はスタッフ一人一人で全く違うものかと思いますが，それを全体で共有しながら，色々な大人がいて色々な方法や接し方があるということを知ってもらうのも，この居場所ならではかと思いました。答えがないからこそ，難しいものではあり，悩むこともたくさんありますが，「ゆいゆいに通い始めて，子どもが笑顔になりました。」そんな声を聴くと，何よりうれしく思います。今後，子どもたちにとって，そしてご家族にとって，次のステップに進めるような居場所を運営していきたいと考えています。

吉儀庸子

居場所，自立支援事業，食の確保

こどもの居場所ゆいゆいで不登校児と接する中で，こども一人一人の思いに触れ，保護者のことばを聴き，どのような居場所であるべきなのかを考え続けています。

大学生ボランティアの方たちとこどもたちの関わりを見ると，はじめは恥ずかしさがありなかなかふれ合えずにいても，気づくと思いっきり遊んでいたり，甘えてみたり，気遣ってみたりとこどもたちの表情や表現はとても豊かでした。いつも同じ大人がいる安心感とともに，たくさんの人に接することのできる環境作りの重要性を感じました。

学校に行きたいという気持ちがありながら，なかなか足が向かない子。学校には行きたくない，自分が心地よく過ごせる場所が必要な子。やりたいことがたくさんある子。ゆいゆいでのんびり過ごしたい子。大人とのおしゃべりを楽しみたい子。遊びに集中したい子。様々な思いをもって来所します。そのようなこどもたちが，「安心して心地よく過ごしながら，自信をもって次のステップに踏み出す」ためのサポートができるような場所でありたいと思います。

親支援の必要性

黒田一美
居場所，親の会，親父の会，そらカフェ

学校に行かない子，行けない子，学校という場所がつらいと感じる子，様々な子どもたちとご家族に出会いました。不登校の状況を話してくださるお母さん。なぜかわからない，どうして学校に行けないのか，行かせたい，でも無理はさせたくない，これでいいのか，悪いのか。なにがなんだかわからない，子どもの気持ちも自分の気持ちもわからない，家族の間でも意見が違ってぶつかる。暗中模索でもがく親を，子どもたちも見ています。

お母さんには笑っていてほしい。子どもの願いは，私たち支援者の願いでもあります。笑うために泣く必要があれば，思いっきり泣いてほしい。叫んでもがいてどうしようもなくても，お茶を飲める場所を用意するから寄っていってほしい。話して楽になるなら聞かせてほしい。それくらいしかできないから。

もちろん，支援者は支援をするために必要な情報を収集したり，支援計画を立てたり，知識やスキルも学ぶ必要があります。でもそれらが役に立つのは，子どもたちとご家族がちょっと休憩して元気になってからなんです。

止まり木のような居場所であれたら，と思います。お母さんも一緒に休んで行ってください。

どっちに行ったらいいのか，どんな風に飛んだらいいのか，もし一人じゃ無理だったら一緒に考えよう，一緒に練習しよう。きっと素敵な大空が待っている。

お母さん，一緒に見守りましょう。

不登校の子ども達の居場所運営事業と若者の自立応援事業に寄せて

西田由美子
自立支援事業，食の確保・調理講師，権利擁護同行支援

不登校の居場所づくりに取り組み，4年が経過しました。2018 年，子供の未来応援基金 第2回未来応援ネットワーク事業としてのスタートアップでした。市内のスクールソーシャルワーカーや不登校児対象の子ども食堂の方々と何度も話し合いを重ね，教育委員会や近隣小中学校への挨拶から開始しました。その後も公・民を問わず，各関係機関と連携し，周知を図り，現在に至ります。試行錯誤しながら取り組む中，不登校を経験した高校生以上の若者たちとの出会いがありました。自立過程にある若者に一進一退に寄り添いながら見守るという，かけがえのない時間を共有しながら，社会とのつながりを築きにくい若者に焦点を当てた事業の必要性を痛感しました。2019 年以降，3年間に亘り，福祉医療機構の助成をいただけましたことに改めて感謝申し上げます。

本事業は4年の歳月を経て，児童の成長に伴い，若者の自立支援の必要性を痛感し，事業を拡大して参りました。今年度はアルバイトによる就労体験，水族館や緑地公園への外出機会の創出，プログラミングを学ぶ場の提供，自立した生活に向けた食事作り，高校見学，農業体験などに取り組み，自らの能力・興味・関心に沿えるよう，また地域において他者と関わる機会を持てるよう働きかけました。今後は若者自身が必要と感じられるような「若者の力」を生かした地域の産業振興を推進し，就労への動機付けにつながる働きかけを行いたいと考えます。

社会的概念として，自立するための支援はすべての若者に必要であり，自立に対する考え方は，私たちの生活様式や価値観が多様化した現代においては一様ではありません。特に，大人への移行が長期化した若者は，背景にある個々の特性や経済的格差など複合的な課題を抱え，無就労や引きこもりなど，社会とのつながりを失いかけている現状があります。

自立しているかどうかは，個人の置かれた社会的状況等に応じて判断されるべきですが，本事業において目標とされる自立は，就業による経済的自立に限らず，保護者からの精神的独立，日々の生活における自立，社会への関心，公共への参画など多様な要素を含むと捉えています。個々の多様化が認められる近年においては，若者の自立に価値を認め，社会的な目標としていくことが必要であると考えます。

本事業を実施することにより，若者が教育を受ける機会を失い，仕事を持たない状態で孤立しないよう『自立を促進する支援』が必要であるという社会的コンセンサス形成の一助となれば幸いです。若者自身のための自立が促進され，若者の自己実現を果たすとともに，持続的社会のために，若者の思考力・創造性を生かせる社会の実現を切望いたします。

本事業を遂行するにあたり，関わってくださいましたすべての方に深謝いたします。

不登校の居場所つくり事業と若者自立支援事業に取り組んで

増田恵美子
ウイズアイ事務局長 自立支援事業,就労支援

令和 3 年度は,不登校の居場所つくりに取り組んで,4 年目になります。初年度は,内閣府の子供の未来応援基金・未来応援ネットワーク事業の助成でした。3 歳未満の子どもを育てている家庭が主な対象である,ウイズアイが,何故,不登校?と,疑問に思われる方が多い中,私達は不登校の子どもを持つ親のネットワークを作りたいと思いました。

活動を開始して 26 年,NPOの法人格を取得して 15 年になりました。不登校や登校渋りで悩んでいる親達との出会いがあり,親が苦しまずに子ども達と向き合えるような,親がエンパワー出来る場を作れたらなぁという思いからのスタートでした。スクールソーシャルワーカーさんとの話し合いを重ねながら,不登校の子ども達が,ワーカーさんと一緒に来る,その親御さんとのグループワークによる仲間作りが始まりました。

4 年目である今年度は,開業社会福祉士の福本氏にスーパーバイザーとして入っていただき,個別支援計画を一緒に立てていく過程で,課題を整理し,その解決にむけてどういうアプローチが必要かを何度も話し合いながら取り組み,学校との連携も強化できた一年でした。日本社会事業大学の学生さん達の協力を得られたことも大きく,日常の居場所のみならず,「学校で遊ぼう!」という新しい取り組みも実現できました。不登校の子ども達が,学校と疎遠にならないよう,少しでも学校を身近に感じてもらえるよう,体育館や校庭をお借りして,たくさん遊ぶことが出来ました。学校の中に足を踏み入れる事ができたことは大きな成果だったと思います。先生方が,子ども達を大歓迎して下さり,学校は子ども達を待っていてくれているんだと私達が肌で感じることが出来たことも大きかったです。

初年度,居場所を利用した子ども達が,高校生になり,また新たな悩みが生じ,不登校の子どもだけ支援していては片手落ちである,その先の若者の自立・就労にも視野を広げて取り組まざるを得なければならないという切羽詰まった現状が見えてきた結果,若者自立支援にも並行して取り組む必要性がでてきました。

貴財団の助成の採択を得ることが出来たお陰で,不登校の居場所つくりに継続して取り組む事ができました,そこから見えてきたスタッフに望まれる力とは何かを考えると・・

①子どもを真ん中に,親と学校の橋渡しの役割を担う力。
②子どもの好きな事,得意な事,やってみたい事を知る,子どもを観察する力。
③親には,子どもの気持ちを代弁する役割を担う力。
④子どもには,自分の気持ちを伝えられる社会スキルを養う力。
⑤子どもには,年齢に合わせた育みの力。
⑥不登校からひきこもりにならないように,個に応じた魅力ある場を提供する力。
⑦子ども達が,いろいろな人と出会え,豊かな体験ができるような仕掛けをしていく力。

これからも,気がついた課題解決に向けて,試行錯誤しながら,ウイズアイのウイズアイらしいウイズアイにしかできない事業を目指して,子ども達や親達と地道に向き合い,一緒に悩み,苦しみながら,継続して歩んでいきたいと思います。

4　広報ツール資料

4-1　ホームページ

当団体 HP

「不登校の子どもの居場所」専用ページ

（右 QR コードからご覧いただけます。）

団体 HP トップにバナーを貼り付け

助成金専用ページリンク

4-2　チラシ

「若者応援事業」チラシ 通年版

「にじいろだより」（2･3 月号【表】面）利用者向け 隔月偶数月発行

令和3年度　子どもの居場所〈ゆいゆい〉

第２０号（2022年2・3月号）

にじいろだより

WAM助成

子どもの居場所　ゆいゆい

【開所】　月曜日～金曜日　9:30～16:00

【お休み】　水曜日・祝祭日・学校の長期休暇中

春休み…３月２５日～４月１１日

〇利用料無料（イベント毎に別途費用あり）

★新型コロナウィルス感染拡大防止の対応★

・体調不良、発熱の際はご利用をお控えください。
・所属する学校、学年が閉鎖の場合、ご利用を自粛してください。
・来所の際はご一報ください。
・体温を測ってから来てください。マスク着用・手洗い・うがい・消毒も忘れずに！

今後の感染状況によって、
変更になる場合があります。
詳細はお問い合わせください。

居場所の様子

おでかけ

たくさん遊んで体ホカホカ!

ものづくりタイム

アドベントカレンダー♪ お家でお菓子を入れて、クリスマスまでカウントダウン

お正月の熊手づくり。知ってるかな？

学校関係者 支援者,ご家族 経験者 ご興味のある方 どなたでも！

参加費無料

令和4年2月20日(日)
9:30～11:30（9:15 開場）

「不登校・ひきこもりの理解と対応のヒント」
―地域で支えるためには？―

会場　アミューホール（生涯学習センター内アミュービル7階）清瀬駅北口徒歩1分

講師　不登校・ひきこもり相談室 ヒューマン・スタジオ 代表兼相談員 丸山　康彦 氏

お申込みフォーム

※Zoomによるオンライン配信をご希望の方は、お申し込みの際にお伝えください。

※詳しくはチラシ、ホームページをご覧ください。

お弁当のない日は一緒に作ることも。パン作り初挑戦！

NOお弁当day

★居場所の見学・利用登録・親の会等の各種参加お申込み・お問い合わせ先★

ibasyo@with-ai.net

※件名：ご用件/イベント名　本文：保護者氏名・子の氏名と年齢・電話番号　以上をご記載下さい。

070-3827-8612　居場所専用電話応対時間：開所日の9時30分～16時

メールはこちら

居場所ホームページ

〒2004-0024　清瀬市梅園2-2-29

※居場所専用電話の応対時間外はウイズアイ(代)042-452-9765へご連絡ください。

「にじいろだより」（2･3 月号【裏】面） 市内小中学校 関係機関に配布

2月 如月(きさらぎ) February

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
		1	2	3	4 ■ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ ★学習支援	5
6 そらカフェ 13:30-15:30	7	8 ★学習支援 〇若者交流サロン ●料理の基礎	9	10	11 建国記念日	12 プログラミング 13:30-15:30
13	14	15 ★学習支援 〇若者交流サロン	16 ものづくりタイム 13:30-15:30	17	18 ■ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ ★学習支援	19
20 居場所講演会	21	22 NO弁当day ★学習支援 〇若者交流サロン ●料理の基礎	23 天皇誕生日	24	25 ◆硬筆 ★学習支援	26 プログラミング 13:30-15:30
27 親父の会 16:00-18:00	28					

今後の感染状況によって、
変更になる場合があります。
詳細はお問い合わせください。

3月　弥生（やよい） March

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
		1 ★学習支援 〇若者交流サロン ●料理の基礎	2	3 そらカフェ 13:30-15:30	4 ■ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ ★学習支援	5
6	7	8 ★学習支援 〇若者交流サロン	9	10	11 ◆硬筆 ★学習支援	12 13:30-15:30 プログラミング
13	14	15 ★学習支援 〇若者交流サロン ●料理の基礎	16 ものづくりタイム 13:30-15:30	17	18 ■ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ ★学習支援 NO弁当day	19
20 10:00-12:00 親の会	21 春分の日	22 ★学習支援 〇若者交流サロン	23	24	25 春休み 3月25日～ 4月11日	26 13:30-15:30 プログラミング
27 親父の会 16:00-18:00						

中高生対象 若者応援事業

＜毎週火曜日＞
★学習支援
16:00～18:00
〇青少年の居場所
～若者交流サロン～
18:00～19:30

＜第１．３火曜日＞
●料理の基礎を学ぶ
17:00～19:00
※高校生以上
参加費　200円

＜第１・３金曜日＞
■カードで学ぶ
コミュニケーション
16:00～17:00

＜毎週金曜日＞
★学習支援
14:00～16:00

＜第２・４金曜日＞
◆硬筆を学ぶ
16:00～17:00
参加費200円

＜第２・４土曜日＞
PCの基礎から
プログラミングを学ぶ
13:30～15:30

「ゆいゆい居場所事業 そらカフェ・ウイズ YOU（親の会）・親父の会」チラシ【表】 通年版

令和3年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

WAM助成

ゆいゆい居場所事業

そらカフェ
ウイズYOU（親の会）
親父の会

毎月1回 木曜日or日曜日 13:30-15:30

そらカフェ 不登校、引きこもりを考えるオープンミーティング

- 不登校・引きこもりの子どもを持つ親
- 不登校・引きこもりの経験者
- 教育現場の方
- 不登校・引きこもり支援に携わる方
- 子どもの教育や若者の自立支援に関心のある方

進行役：目白大学 准教授 原田和幸 氏

心理学が専門で、心理療法を中心に研究している。
引きこもりやニートの若者の社会的自立支援にも携わっている。

【開催予定日】
5月27日（木） 6月13日(日)
7月15日(木) 9月12日(日)
10月21日(木) 11月14日(日)
12月16日(木) 1月13日(木)
2月6日(日) 3月3日(木)

子どもの居場所「みんなのおうち ゆいゆい」
月曜日～金曜日 9時30分～16時
土日祝日・学校の長期休暇中(夏休み8/7～8/22)はお休みです。
水曜日はイベントを企画しています。詳しくは「にじいろだより」をご覧ください。

お問合せ
お申込

ibasyo@with-ai.net
※事前に受信設定をお願いします。

特定非営利活動法人 ウイズアイ
☎042-452-9765　FAX042-497-2308
204-0024 東京都清瀬市梅園2-2-29 子どもの居場所「みんなのおうち ゆいゆい」
子どもの居場所専用 ☎070-3827-8612
平日9時30分～16時。それ以外の時間はウイズアイへ

「ゆいゆい居場所事業 そらカフェ・ウイズ YOU（親の会）・親父の会」チラシ【裏】 通年版

令和3年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

WAM助成

会場：子どもの居場所「ゆいゆい」

204-0024 東京都清瀬市梅園2-2-29

毎月第3日曜日 10:00-12:00

不登校の子どもをもつ親の会 ウイズYOU

ウイズYOUは、不登校の子をもつ親同士が安心して話せる場です。

不登校の子を持つ親と出会えて、なんでも話せるほっとする場所です。

4月18日・5月16日・6月20日・7月18日
9月19日・10月17日・11月21日・12月19日
1月16日・2月20日・3月20日

居場所展
「ウイズYOU参加者の声」より⇒

毎月第4日曜日 16:00-18:00

不登校の子どもをもつ 親父の会

父親ならではの視点で話せる場を開いています。
進行役：目白大学講師 原田和幸 氏

子どもが学校に行かないことにいら立った。
でも「行けない」んだと思って楽になった。
今、思えば…ですね。

5月23日・6月27日・7月25日
9月26日・10月24日・11月28日・12月26日
1月23日・2月27日・3月27日

※日時が変更になる場合がありますHPでご確認ください。

お申込
お問合せ

ibasyo@with-ai.net
件　名：○月○日【参加する会】参加申し込み
本　文：お名前と電話番号
※事前に居場所からの受信設定をお願いします。

子どもの居場所専用
☎070-3827-8612（平日9時30分～16時）

「子ども・若者の安心・安全な場つくりと自立を応援する」事業

実施報告書

令和４年４月　発行

特定非営利活動法人　ウイズアイ

この報告書には，アンケート結果・写真が掲載されています。
掲載ご承諾でご協力いただいたものですが，本報告書の取り扱いには十分ご配慮いただきますよう，お手に取っていただいた皆様にお願い申し上げます。